



東北  
大

# きょうかん

発行  
東北大学教育学部  
関東地区同窓会

事務局  
〒130-0024  
東京都墨田区  
菊川 3-8-6-703  
(石森 ミネ子方)

電話 03-3635-2710  
minekoishimori@nifty.com

題字：江川 亮

ご挨拶  
「変革期の今こそ交流拡大を！」  
—会員一人ひとりの積み上げで—



東北大学教育学部関東地区同窓会会長  
星 永揚 (教育社会 66年生)

本年五月一日、平成から令和に改元され、新たな時代へ踏出ししました。私共の関東地区同窓会も平成元年七月の創設、期せずして三十一年目の節目にあたり、感慨深いものがあります。同時に、この間、会を支えて下さった皆様のご支援に心から感謝申し上げます。

二年毎開催の総会・懇親会は、昨年十月二十八日、麗澤大学東京研究センターで、工藤与志文学部長・渡邊宣隆東北支部長・関口隆元支部長のご来賓を含め総勢三十六名の参加でした。

「教育学研究科の改組と大学をとりまく状況」と題した工藤先生の記念講演は、時代の要請とその対応・教育学部将来構想等の一端を伺いました。先生の日頃のご労苦に対し、心から敬意を表します。また、役員人事では、事務局長と一部役員の交代等が原案通り承認され無事終了しました。

総会後の懇親会は、恒例の「三國一」へ会場を移し、和気藹々、思い出話や秘話暴露が相次ぎ本当に楽しいひと時を過ごしました。お蔭で元気をいただき感謝です。

次に創立百二十周年を迎えた母校の現況。二〇一七年、指定国立大学法人三大学(東北大学・東京大学・京都大学)に指定されたのは周知の通りです。本年六月三十日開催の「萩友会(全学同窓会)

関東交流会」で、大野英夫総長は挨拶の中で概略以下のように述べられました。『最先端の創造、大変革への挑戦』—「社会とともにある大学」としての東北大学—の「研究第一」「門戸開放」「実学尊重」を基盤にその実現を目指している」と具体的なデータをもとに力強く述べられました。実際、教育関係者の大学ランキング(朝日新聞・高校からの評価、連続十一年一位他)でも上位にランクされているようです。(詳細は後述家根さんの報告を参照)

我が教育学部は、昭和二十四年五月、宮城師範学校(青年師範を含む)を包摂し、義務教育の教員養成をも担う部局として創設され、今年七十周年に当たります。本部では、十月二十六日(土)午前一時より、川内南キャンパス文化系総合研究棟十一階大会議室で、総会・記念講演・懇親会を行う予定です。また、九月二十八日(土)から二十九日(日)には「東北大学百二十周年ホームカミングデー」が開催されます。いずれ詳細な案内があると思いますが、この際は是非、懐かしい仙台に足を運び母校を訪れて下さい。

最後に会員拡大へのご協力をお願い。現在、関東支部には本年一

月時点で三百九十名の方が登録されています。専攻別では、哲学三十名、社会八十七名、行政八十六名、心理八十名、心障四十名、学校六十七名です。残念ながら高齢化に伴い漸減傾向にあり先行きが心配です。幸い、本部の卒業生への周知努力が奏功し、貴重な若手会員の加入がありました。嬉しい事です。人との繋がり、日常生活に於いて誰にとっても重要な活力源の一つです。「きょうかん」ご縁の積極的な活用をお薦めします。



①「川内キャンパスの現在の教育学部棟」



②「紅葉の映える川内キャンパスへの道」



③「片平町時代の教育学部」



④「教育学部川内東分校時代の風景」  
(写真③④は「'09年卒業生名簿」より転載)

※「ドローンで母校の各キャンパスを巡ってみましょう！」  
パソコンの検索で「ドローンで見る東北大学」と入力し、検索してください。

## 「新教育学研究科の挑戦」



東北大学教育学部同窓会会長  
教育学研究科長 教育学部部長  
八鍬 友広  
(教育学博士課程卒)

本年四月より、教育学部部長・教育学研究科長を仰せつかつております。八鍬友広と申します。一九八四年に教育学研究科に入学いたしました。満期退学後、長く新潟大学教育学部に奉職いたしました。二〇一二年より、本学研究科に籍を置かせていただいております。

教育学部関東地区同窓会様におかれましては、日頃より東北大学教育学部・大学院教育学研究科に對し多大なるご支援・ご尽力を賜りまして、誠に有難うございます。研究科を代表いたしまして、あらためて深く感謝申し上げます次第です。

東北大学全学としても、同窓会との関係の強化は、現在重要課題のひとつとされているところで、教育学研究科といたしまして、今後、さらに同窓会との関係を強化してまいりたいと存じます。なにとぞ、よろしく願っています。

さて、本誌前号においても紹介されておりますが、教育学研究科は、昨年度より新しい研究科として再出発いたしました。教育情報学・研究部との組織統合を成し遂げ、新しい教育学研究科となりました。昨年度がその最初の年度と

なっております。来年度において組織改組も完成となりますが、いまは、新旧両方の課程に属する学生が、交じり合いながら、それぞれの学びを展開しているところで

AIやデータ・サイエンスなどの今後の展開は、人間の在り方そのものに巨大な影響をもたらすものと思われませんが、教育情報学との統合は、ICTや「情報」などに関連させながら教育についてのより専門的な考察を可能とするものであり、きわめて時宜にかなったものであったと思われま

す。組織改組により、研究科には工学系の教員も含まれることとなり、これまでの純文系といった雰囲気の研究科から、多少なりとも脱皮した形となっております。全国的にみても、これだけ「情報」と接点を有しながら「教育学」の研究教育を展開している教育学研究科は他にないのではないかと自負しているところ

です。一方で、AIやデータサイエンスなどの有する、ある種の危うさのようなものも、ひとつの社会的な論点となっております。AIをはじめとする人間の技術が、人間の判断の水準をこえて展開する時点(シンギュラリティー)が接近

しつつあるのではないかと、見る人も増えつつあるようです。大学は、このような危うさにも、自覚的であるべきだろうと思われま

す。そのためには、人間に関する深い洞察力と、高い倫理感が重要となることでしょう。教育学研究科では、昨年度より、大学院生向け科目として、「エデュフェア・マインド」という授業を実施しています。エデュフェアとは、education、welfare、およびfairの語を組み合わせた造語です。教育に関して、人間の福祉や公正さと関連させながら、具体的な事例に即して学ぶ機会となっております。前期二年の課程に属する学生には必修として課して

います。このような科目を大学院において必修としている教育学研究科はほかにないのではないかと考えます。この授業を通じて、公正で包摂的な社会の在り方についての考察が広がっていくことを期待しています。

以上のように、AIやデータサイエンスなどのような先端的な研究動向と、公正で包摂的な社会の形成という、いずれも喫緊の社会的課題となつているその両方について、教育学研究科は取り組んでいるところ

です。とともに、ご支援ご尽力を賜りますことを、最後にあらためてお願い申し上げます。

## 東北支部の仲間から

「新たな元号を迎えて」  
東北大学教育学部同窓会東北支部長  
渡邊 宣隆 (学校教育 68年卒)

東北支部への名称変更の会則が施行され三年目、母体の旧仙台支部が誕生して四十年目の平成最後の三十一年度が始まって一カ月過ぎに改元が施行され、令和最初の役員会を五月中旬開催しました。年度表示をどうするか迷い、国の動向を探ったところ、総務省の通知で会計年度は令和とするとあり、その他は各関係機関等で定めて良

いようなので県や市の動向を見ていたところ、学部同窓会で令和元年度表示をしていましたので本会も会計年度と同じく令和元年度で運営をしていく事としました。関東地区の皆様は今までにない新しい息吹を感じていますか。改元は私達に新しい時代の息吹を感じさせてくれるのではと期待している所ですが、十月の消費税率アップは現実のようです。それにも増して昨年来様々な物が値上がりしています。身近な物でいえば例えば我が家のペットに係る経費、ペットフードやおやつ

の値上げ、週二〜三回に通院治療にかかる治療費と投薬代が値上げ、年金が殆ど持つていかれると妻が嘆いていま

す。ご多分に漏れず、本会運営にも直撃しています。予想はしていましたが、会費の納入率が二年連続五十%を割る状況の中、昨年十月からの振込手数料の一律七十円値上と来年度四月からの振込受払通知票郵送の有料化(百八円)は大

きな打撃です。単純に計算すれば千円会費は実質七百円の収入にしかならないという事です。基金を崩して対応したとしても五〜六年しか持たないのではと危惧しております。五月の役員会ではこの問題が話題となり、振込手数料の本人負担や協賛金の募集、会費の値上げ等の対策が提案され次の役員会

で課題などを含め検討することになっております。旧仙台支部が誕生して四十年、記念の会報作成に係る経費を基金から支出する事もやむを得ないという認識です。また、役員会の出席率が三十%にも満たないという状況です。今年度から欠席者は委任状の提出を義務付けました。十二名から提出があり出席者を含め過半数を若干下回る数ですが形を整える足掛かりができたと考えています。役員会での決議が優先する議題が多



協議のもと進めたいと思います。

赤裸々に現状を述べましたが、会員の高齢化と会員数の先細りが大きな要因、新しい息吹を信じて難題に向かったいこうと思えます。

ある機関の新聞を読んでいた次のようなエッセイがありましたので紹介します。「人との繋がりの中で生き生きと動き回っている方が、活力が湧いてくる……人に何か役立つことをするとホルモンが分泌されて老化を防ぐと聞いた自分を磨きながら幅広く活動し、心の豊かさを大切に、人生を過ごしたい」同感です。頑張ろうという気持ちが再燃してきました。



「二つの支部を経験して」  
東北大学教育学部同窓会東北支部理事  
中川 典雄(教育社会 66年卒)

私は損害保険会社勤務を卒業し故郷仙台に戻り10余年を経過しました。現役中は関東支部のみなさまに大変お世話になり、ありがとうございました。仙台でも本部と東北支部に所属し教育学部同窓生として活動、交流を深めています。現役中と退職後に生活拠点が異なり二つの支部を経験交流することができ、ありがたいと思っています。

東北支部へ移動後、うれしかったことは、平成20年5月に「大学創立100周年と関東支部創立20周年」を記念して関東支部同窓生を川内キャンパスで本部、東北支部の一員として歓迎交流出来たこと

です。また、教育社会学専攻の同窓生で結成した「苗床」の会合を平成28年、仙台の秋保温泉で開催、佐々木徹郎先生も出席し懇親できました。この会合はその後場所を東京に移して交流を深めています。

また私事ではありますが、卒業作成時、実態調査した東松島市野蒜の農業生産法人を昨年「県の食品表示ウォッチャー」として訪問しました。青々とした大規模水田に機械化生産管理を取り入れ、後継者も育ち、コメ麦、大豆の他にバウムクーヘン加工などに取り組み、東日本大震災にもめげず消費者のために生産拡大し、成長している姿に感動しました。

逆に悲しいことは平成23年3月11日国内観測史上最大のマグニチュード9の東日本大震災の発生です。報道によると8年経過して巨大地震、津波や原発事故の犠牲者は行方不明者、関連死を含め2万余人、福島県民を中心に全国への避難民は5万余人、プレハブ仮設住宅で生活している被災者は3千人以上と、震災は進行中で復興はまだ道半ばです。更に懸念されることは復興法が2021年に廃止となり後継組織が明確でないことです。日本は島国だけに自然災害は多く、大震災後も度々発生しています。地震を含めて全ての自然災害を統括する専門部署の早急なる新設が望まれます。

さて東北支部は昨年、参加対象

者を拡大、名称も「東北支部」と変更し新たなスタートをきりました。活動拠点が川内キャンパスだけに本部との交流も良く、学部創設60周年記念に在学生の論文執筆援助事業を活動項目とし、総会懇親会に在学生も参加、交流を深めています。

本年は学部創設70周年を迎え、本部、東北支部、関東支部も各々記念すべき創設年目を迎えます。この機会に二つの支部が抱える課題、例えば「会員の増加」を念頭に置いて活動してはいかがでしょうか。フラットなコミュニケーションである同窓会の活動が更に活性化出来る方法を全員で考えてみる活動です。当たり前の課題ですが、同窓会運営に直接関係し身近なテーマだけに重要で大切だと思います。



「教育学部棟から見た秋の仙台市街風景」

「東北大学二二周年関東友会報告」

東北大学教育学部関東地区同窓会顧問  
家根 敏明(教育社会 57年卒)

二〇一九年関東交流会は去る六月三日日東京丸の内サピアタワー五階ホールで開催されました。参加者五〇〇名と前回を上回る盛況でした。会は関東萩友会大槻幹雄会長挨拶のあと、大野英男東北大学総長萩友会会長の挨拶、原信義副学長のスピーチがあつて、その後小憩を挟み、医学系辻一郎教授、文学系坂井信之教授お二人の記念講演をいただきました。マティー・キーナート特任教授による司会も適切明快な進行で好評でした。

講演会のあとは懇親会に入り、同窓の小田和正氏作詞作曲の校歌「緑の丘」を東北大学混声合唱団が歓迎演奏する中で会場の各所に旧交を温め近況を語り合う談笑の輪が見受けられました。その中に昔日我らが貧食学生の頃露命を繋いだ学食の「貧食カレー」が往時の味で提供されていたのも話題を呼んでいました。

大野 英男総長の大学の現状報告「最先端の創造と大変革への挑戦」東北大学は、建学以来「研究第一」の伝統、「門戸開放」の理念、「実学尊重」の精神を基に、卓越した知と人材の力をもって、社会の変革、イノベーションを牽引してまいりました。

指定されるとともに二〇一八年十一月には「東北大学ビジョン二〇三〇」を取りまとめ、「最先端の創造、大変革への挑戦」というタイトルのもと、「教育」、「研究」、「社会との共創」の好循環をより高い次元で達成し、知的基盤社会的担い手としての推進力を飛躍的に高め、指定国立大学法人にふさわしい新たな大学の姿を目指して大胆な挑戦を行っております。

指定国立大学法人とは我が国の大学における教育水準の向上とイノベーション創出を図るため文科大臣が世界最高水準の教育研究育成活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を指定するもので、東北大学と東大、京大の三校が指定されました。

こうした立場の確認に立ってビジョン二〇三〇に掲げた構想イメージ「社会とともにある大学」として最先端の創造、大変革への挑戦に取り組む経営体質を実現いたします。最先端の創造はAI教育を通して大変革時代のリーダーを育成するために来年度の全新生にAI・数理・データリテラシー教育を予定します。意欲的な学生には「排創カレッジ」の創設を開始、国際混住学生宿舎「ユニバーシティ・ハウス」の整備開放もその一環とされます。

他方学術界に影響ある高被引用論文著者数二〇一八年度版においては、東北大は東大に次ぐ第二

位にあり、また産学共創関係の実績において外国との共同研究費受入額は第一位にあります。

東北大学はこうして創造と変革を先導する大学として未来に向けた社会変革に力強く取り組んでおります。

原 信義副学長

「東北大学と秋友会の活動」

東北大学は創立一〇〇年の二〇〇七年に校友会を発足、二〇〇九年六月に「東北大学秋友会」を正式名称にしました。会員は十五万人に及ぶ同窓生に加えて現旧の教職員、在校生、そのご家族を含む構成で「東北大学コミュニティ」の連帯意識の醸成強化を目的としています。秋友会の活動には地域同窓会、学部研究科等部局別同窓会、年次別同窓会等のほか海外移住、海外活動者の増加、外国人卒業生等による同窓会の国際化進行にも対応する体制が進められています。会員各位のより一層のご支援をお願い申し上げます。

「記念講演」



「関東秋友会 大野総長の講演」

辻 一郎医学系教授  
「認知症が減り始めた欧米の生活に学ぶ」

近頃欧米では認知症の発生頻度が減っています。それは高齢者における高学歴化と生活習慣の改善(喫煙率低下等)によると考えられています。認知症の三割程度は次の七つの要因によるものとされ、それは糖尿病、高血圧、肥満、身体不活動、心理的苦痛、喫煙、低学歴であり日本でも欧米でも共通の傾向です。これら七つの要因をコントロールし、有酸素運動、社会参加、食習慣の改善を実践することで認知症は半分には減らせると私は考えており、臨床実験でも証明されています。

坂井 信之文学系教授

「おいしい食べ物はない」

美味しさを感じる脳の仕組み

私たちは「舌で味を感じている」と思っていますが味覚にはいくつもの勘違いがあるようです。科学的な味わいの説明により味には香りや見た目の影響が想像以上に関わっていることが判ってきました。私たちのおいしさの判断には味覚や嗅覚などの感覚情報よりも記憶や認知など高次な脳機能が優勢であることを紹介します。そこで私たちの味わいは頭でつかちな部分が多いこと、それで騙されてしまうことを理解していただき、しかし「騙されること」も体にネガティブだけではないことをご理解して

会員便り

いただきたいと思えます。

関東地区在住の会員の方に近況報告を含めて自由にお書き込みいただきました。(卒業年度順・お名前前の敬称は省略させていただきます)

「教育界から町長へ」

新井 雄啓 (教育行政 63年卒)

私の職業人生を振り返ってみると、兄の経営する会社に二年、教職への思い断ちがたく教員となり、定年は県職で迎えた。その間、教諭十七年・管理職九年・教育行政職十二年・町教育長十二年と半世紀を教育界で過ごした。その後、望まないことであつたが、いろいろな事情から町長に就任し、現在七年を経過している。

教育の世界と政治の世界を経験し、様々な違いを感じている。政治の世界に入るには選挙という関門を通過しなければならぬが、公務員として永年過してきた身にとっては、極めて苦痛であつた。しかしながら一部の政治家にとっては、選挙という制度は極めて有り難いようである。選挙というフィルターを通ると表現は適当でないが、組織でステータスが得られないような人が一挙に頂点に登れるからである。そこで多くの政治家は常に選挙を意識し大衆に迎合し、所謂ポピュリズムの状態

になつていようと思われる。「付度」が問題になつたが、地元選出の国会議員を先頭に国に陳情に行けば、どの役所も結果はどうなるか分からないが、取りあえず良い返事がいただける。予算編成時期になると、どの官庁も議員に引き連れられた陳情者でこつた返ししている。こんな状態で日本の政治は良いのだろうかと感じることがしばしばある。

また、政治の世界(町長)の職務では、結果として形に現れることが求められる。私も就任以来、火葬場の建設・駅の改良・道路の改良新設・観光地の整備・観光施設のリニューアル・企業誘致など目に見えるハード面の施策を実現してきた。

反面、教育界ではすぐに目に見えるものを要求されることもないし、また実現もできない。現在勤務している町には、嘗て二つの中学校があり通算で十三年間教員をしたので、副町長・教育長をはじめ課長達も殆どが教え子である。永年の関係で、お互いが気心を知り合っていることで、和気藹々の中で仕事ができることは幸せである。教職にあるときの教え子には、ハウンドドッグの大友康平をやんちゃな彼が中三の時に担任し、校長の時には可愛い中学生の菅野美穂が在学し、未だに多くの教え子との関係が継続し、教師冥利に尽きることを感じている。

残された町長の残任期間を精一杯務め、次世代を担う人材を育て、一日も早く悠々自適の生活に入りたいと思う昨今である。

「ユーチューブから」

金野 久子 (学校教育 63年卒)

長い梅雨が明けた途端、日本列島を襲っている連日の猛暑。一体いつから亜熱帯のような高温に変わったのだろうか。仙台の夏は比較的涼しかったのに。天気予報では三十五度を超えている。八月の六七、八日の七夕まつりの仙台の夜は気持ちいいほど夜風が冷涼だったことを思い出す。

大学を卒業してから五十六年過ぎてしまった。ふるさと仙台には妹が一人いるので、行く度に川内キャンパス巡りのドライブを所望している。昔日の建物はまったくないけれど、上り下りした坂道は変わりない。確か植物園があつたはずと廻って見たが入口がなかなか見つからない。丘陵地帯をバイクで行き来している学生が多いようだ。卒業式は1960年開館の記念講堂で行われた。(現在は改修されて川内萩ホールの名称)地下鉄東西線のアクセスもよくコンサートが開かれているという。ところで学生歌といえは「青葉もゆるこのみちのく」が懐かしく思い出される。平成29年度の「きょうかん」誌に小田和正氏作詞作曲の新校友歌「緑の丘」の紹介記事



が載っていておやと思つた。どんな歌なのかと興味を抱き、まずは検索するとユーチューブで学生の歌声を聴くことができた。なだらかな坂道を上れば川内

緑の丘  
広瀬川から幾重にもかさなる

流れるメロディと共に川内キャンパスの光景、かの頃の白い建物の古い映像まで、五十余年前の青春が一気に蘇える思いで繰り返し見てしまった。明るく優しいのメロディが心地よく響く。私の頃はなかつたこの校友歌はきっと皆に愛され歌い継がれていくのであろう。

来年は二度目の東京オリンピックの開催。そういえば一九六〇年のローマオリンピックに東北大学ボート部の出場が決まり学内が盛り上がりつつあった。キャンパス内で壮行会が行われたことを思う。その時「青葉もゆるこのみちのく」の学生歌を力強く皆で歌つたはずとユーチューブが茫茫となった記憶に私を連れて行ってくれた。

「バイオリンの別れ」  
中林 勝男 (教育社会 65年卒)

身辺些事にかまけているうちに、あのちよつとした憧れが遠のいていった。仕事人間の日常にけりをつけて自由人にとびこめると思つたものだった。名刺はもたない。肩書きなんぞバイバイ。そんな暮しは実にさっぱりした心地がする

だろな、と。

ところが、ほんとうにむずかしいものだった。シンボリックなものでおなじみの、とらわれざる精神に近づくこととするには、へたすぎる生活技術をなんとかしなければならぬ。そして、断捨離。せつせと捨てて、また捨てる。長く親しんだスキーと登山の身体にしみついた用具類のほぼぜんぶを始末した。このときは、書棚の本の処分とはまるでちがつて身を切られるような気分を味わつた。写真も、終活のターゲットになる。えらびぬいて、わかるようにメモ書きをそえる。あとは苦しい思い出をふくめ捨てちゃつた。

最後に古いバイオリンが残つた。郷里の兄からゆずりうけたものゆえ、こつちのつごうではふんざりがつかない。もう、すつかり弾くこともなくなつたから、粗大ゴミとして捨てるしかなかったの——

あの日。入院した兄の訃報がもたらされたのは、西日本を襲つた豪雨の甚大な被害を映すテレビに釘付けにされたときだった。葬儀から帰京した私は、やつとバイオリンを捨てる決心がついた。うすれゆく青春譜のひとつは、身内のだれかが覚えていてくれるかもしれない。それでよしとしよう。

「プラームスのレクイエムを聴き、回復をねがって病院通いをしてきたころだ。畏友A君(萩友会)が旅立つた。梅雨寒の病床でなにを

思つたことだらう。望郷の寒天の素月か。咲きてありやと、初秋の萩か。俳句をよんだ友を惜しみ、下り坂をくだつて生かされる自分をかえりみるばかりである。

これから逢着する幽明境をおそれながら、老生は、なお残日をおしんで溜息をついている。

「これからの人生を考える」  
小熊 順子 (教育心理 69年卒)

今年の「きょうかん」臨時増刊号は令和元年の発行となる。新しい元号に代り気持ちも引き締まる思いであるが、かくいう私も古稀を過ぎて、仕事人生に終止符を打ち、新たな人生を迎えようとしている。気がついてみると長いような短いような、実感があまりない。しかし、現在はこれまでの積み上げの延長戦上にあるので、歩んできた過程を振り返ってみるとな

づけるような気がする。家庭裁判所の調査官時代には主に非行少年を、全国療育センター時代には障害児、主に自閉症児を、それから国立身体障害者リハビリテーションセンター時代には身体障がい者の心理的支援を、そして現在に直結する福祉系の私立大学では心理学の教授として学生の教育を担い、現在も客員教授で少しの科目を教

えている。古稀を過ぎてなお仕事ができるということは、大変幸せなことだ。大学側の理解に感謝しているし、これまでの経過の中で

私を支えて下さった方々にもこの紙面を借りてお礼を申し上げたい。

さて、次なる新たな人生をどのようにしていかかであるが、これまでの意識・イメージの転換が求められると思つていたところ、アドラー心理学の研究者である岸見一郎氏の「定年をどう生きるか」で紹介されていた次の文言が目にとまった。あなたには過去も未来もない。「今、ここ」を生きよう!「今、ここ」を真剣に、全力で生きるべき、それは今考えない

でいいことを考えないこと、今考えないといけないことだけを考えること、未来に向けてでなく、「今のための」準備をする、と。過去のことを思つて後悔したり、未来を思つて不安になつたりするのは、今を生き切れていない、とも述べている。私は「劣等感情と優越感情」を説明するときにアドラーの考え方を用いていた記憶がある。

いろいろ経験をつんできているがゆえの迷いやふんざりのつかなさ、停滞現象を引き起こさせるので、取ってアドラーの「今、ここ」に着目して臨もうかと思つてるところである。

「原田政美先生との出会い」  
郷家 和子 (心身障害 69年卒)

私は昭和四十六年三月に視覚欠陥学講座修士課程を修了し、同年東京保健福祉局(現)心身障害者福祉センターに視覚障害専門福祉

技術職として入局した。センターは更生相談所とリハビリテーション機能を併せ持つ障害者総合支援機関であった。講座の恩師原田政美先生は昭和四四年に東北大学からセンター所長に就任された。私は、眼科医でロービジョンケア学

研究の礎を築いたといわれる原田先生との出会いによって研究とは何かを教えていただいた。それはZones(新しい課題・発見)か、役立つ実践的なものを常に念頭に置くことであつた。これを踏まえて経常業務の視覚障害児者の各種相談・障害認定等に携わりながら、視覚補助具の開発及び指導法の研究、新職業開拓・職場復帰支援、視覚障害者の司法試験受験時間延長支援、ピア懇談会支援、眼科医向け「視覚障害理解」の病院出前講習会や都指定医講習会設立等を行つた。なお、視覚補助具の盲人用読書器オプタコンは昭和四九年にアメリカから導入され、視覚障害の教育・就労分野を越えて他の分野の研究・発展に多大な業績を残した。これは普通文字の形を触知盤にピンの振動パターンで表示し、それを指先で読むという画期的な器械である。福祉機器展で、常陸宮殿下に私が器械の説明をさせていただいた(写真)。

個人々へのケア業務以外では、厚生労働省が定める取扱指針や規定の改正に関与した。前者は日本ロービジョン学界から提出した補

補



「常陸宮様オプタコンを触知」

努めることになり、より深く高校野球に関わるようになりました。令和元年八月六日、第10回全国高等学校野球選手権大会が開幕しました。阪神甲子園球場で見聞きし感じたことなどを綴ってみようと思います。

夏の高校野球は多くの人々の関心を集める日本の夏の風物詩です。昨年の第100回記念大会を一人で投げ抜き優勝した高校の投手を称賛する声があり、また、今年の岩手大会決勝戦で、けが予防のため主戦投手を出場させなかった高校の監督への賛否両論の声がマスコミで取り上げられています。高校野球は国民的行事であるとも言われ、それ故に関心ある誰もが自身の体験や主観に基づくエビデンスなき批評家になってしまふ恐れがあります。そもそも投球数をどう制限すべきかについて科学的根拠に基づいた議論がまだできていないことが問題であり、大会日程の見直しも含めて議論すべき課題なのです。日本高等学校野球連盟は有識者会議の提言を踏まえて年内に結論を出すとしています。エビデンスに基づいた解決策を講じてほしいと思います。

ちは炎天下のグラウンドで必死にプレーしています。アメリカでは考えられない。COPAなことだといいますが、目の前で行われているのはBogotáではなく、高校野球という日本文化を表現したものなのだと思います。即刻中止すべきとは考えられないのです。野球に限らず、部活指導の問題等でブラックとされる教員の働き方改革が如何に困難かを実感した夏でした。

「社会人五年目の学び」  
佐藤 公彦 (教育心理 '15年卒)

二〇一五年に大学を卒業し、社会人になって今年で五年目になります。働き始めたころは右も左もわからず必死にもがく日々でしたが、最近は少しずつ余裕ができて周りも見えるようになりました。そんな中で、最近、大人になってからの学びは学生時代の学びと大きく異なる点があるかもしれないと考えようになりました。すなわち、「自分で自分を変えることができるかどうか」が、大人の学びの深さを決める重要な要素の一つかもしれないと考えようになったのです。学生時代の学びが他者、外界によって自らを変える学びだとすれば、大人になってからの学びは、自己・内面から自らを変える学びと言えるかもしれないと最近感じています。

マイルストーンにして勉強することが多いのですが、何度も何度も試験に落ち、こんなにも自分は要領が悪かったのかと思うことがあります。そういうときははたいてい自分の思考の癖にハマってしまっており、先生方のフィードバックがあつた学生時代の勉強と比べてだいぶ効率が悪く、迷走してしまっています。また、仕事の仕方や自身のキャリアの築き方など、そもそも資格のように体系的に捉えることが難しく、ゴールも設定しづらい領域においては、自分のやり方以外のやり方があるという発想にすらなれず、自分の成長に自分で蓋をしてしまっているなど感じる事が多々あります。

成長するということはできないことができるようになることであり、自分自身が変わっていくこと、という側面があるように思います。「いかに自分で自分を変えるか」が最近の私の学びのテーマです。在学中に研究室で大変お世話になった神谷哲司先生に卒業してからお会いした際、先生はこのようにおっしゃっていました。「生涯発達というのはロマンなのです。『変わるかもしれない』という」。人生百年時代。学び続け、変化を模索し続けることが先生のもとで教わったことの証明になると信じ、まだまだ続く大人の学びと格闘していきたいと思っています。

昨年十月開催の第十五回総会・懇親会の出欠返事葉書に添えられた会員の言葉を掲載いたしました。懐かしい先輩・同期・後輩諸氏の状況確認にお役立ていただければ幸いです。

（専攻別・卒業年度順に掲載、お名前の敬称は省略）

若林 滋  
事務局ご苦勞様でございます。「きょうかん」お送りいただきありがとうございます。北海道の近現代史を勉強し少々本にしています。日本エッセイストクラブ会員の末席にいます。  
（教育哲学59年卒 札幌市南区在住）

笹川 智恵子  
いろいろお疲れさまです。事務局のお仕事でもお世話になりました。総会が盛会におえられますようガンバリましょう。  
（教育哲学69年卒 埼玉県狭山市在住）

鈴木 重男  
いつもご案内ありがとうございます。今年こそはと思うのですがなかなか都合がつかず出席できません。皆様のご健勝と総会・懇親会の盛会を祈念しております。  
（来年こそは！）  
（教育哲学70年卒 静岡県浜松市在住）

「高校野球に関わって」  
渡邊 範夫 (教育哲学 '83年卒)

原田先生は臨床からの学びと独創性の重要性を教示し、私に社会貢献の一助を担うよう育てて下さったと感謝している。

大学卒業後すぐに千葉県の高校教員となり37年目の夏をむかえました。現在県立高校の校長をしており、教職員の働き方改革の渦中にいます。

若い時に野球部顧問をしていたことが縁で、今年度から（一財）千葉県高等学校野球連盟の会長を

お盆の帰省シーズン前後に開催される夏の甲子園大会は、見る人の郷土意識を高め、記憶を昔に戻してくれるタイムマシンのようです。猛暑の中、一日に五万人を超える入場者があり、高校球児た

私の場合、資格などの試験を





【関東地区同窓会総会での工藤先生の講演】

木村 俊二

いつも会報をお送りいただき、有難うございます。公立中学校の校長を退職し、昨年からの地元での教育長を勤めています。教育における「不易と流行」を肝に銘じて職務に当たっていきたいと思っています。

(教育哲学72年卒 東京都西東京市在住)

木戸 裕

大変お世話になります。皆様とお会いできますことを楽しみにしています。

(教育哲学74年卒 東京都板橋区在住)

渡邊 範夫

都合がつかず欠席で申し訳ありません。千葉県立多古高等学校の校長として配置されて二年目となります。人口減少地域での生徒募集は困難です。ご盛会を祈念申し上げます。

(教育哲学83年卒 千葉県香取市在住)

西山 拓

川崎市社会教育委員をつとめています。五年度目に入りました。

(教育哲学96年卒 東京都目黒区在住)

小林 幸一郎

楽しみにしていたのですが体調の事があり、残念ながら出席できません。皆さんによりしく、会の発展を祈りながら。

(教育社会55年卒 埼玉県所沢市在住)

家根 敏明

旧知の諸氏と再会できるのが楽しみです。

(教育社会57年卒 東京都世田谷区在住)

大寄 晋

昨年来、健康に不安な毎日です。

(教育社会58年卒 千葉県船橋市在住)

石塚 米子

同窓会のご案内有難うございました。残念ながら病気で出席できません。ご盛会をいのります。

(教育社会61年卒 神奈川県平塚市在住)

吾田 壹明

先般六月十四日、東京苗床会に参加したところ、恩師の佐々木先生と東洋大学の社会人大学院でお世話になった小林先生にお会いでき、とても懐かしい思いでした。

(教育社会63年卒 埼玉県狭山市在住)

北森 義明

体調不良で残念ながら欠席いたします。

(教育社会63年卒 東京都西東京市在住)

西村 孝雄

中野区議会議員(公明党)を七期二十八務めたあと、挑戦して社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格を取得し、現在「SW(ソーシャルワーカー)ルーム」として個人事業所を開設しています。成年後見人を複数担当したり、諸々の相談に応じたりしています。

(教育社会63年卒 東京都中野区在住)

佐藤 門哉

当日は仙台学生会館の総会があり、残念ですが、欠席させていただきます。

(教育社会64年卒 東京都練馬区在住)

鈴木 俊之

地区同窓会の盛会を祈っております。地域社会の一員としてシニアクラブでの関わりをしながら楽しく過ごしております。

(教育社会65年卒 神奈川県横浜市在住)

中林 勝男

ご盛会をお祈りいたします。完全にリタイアして、毎日、身辺雑事に追われております。

(教育社会65年卒 東京都中野区在住)

萬矢 和恵

申し訳ありませんが、体調不良で出席できません。

(教育社会65年卒 神奈川県横浜市在住)

佐久間 孝正

二年前より、同窓会を良く聞く新宿アイランドタワー隣のコクーンタワー内の大学に勤めております。大学にもさまざまな委員会があります。現在はLGBTIQ委員会に所属し、近年の社会の変化をひしひしと感じております。ともあれ元気にやっております。

(教育社会67年卒 東京都西東京市在住)

今野 勝利

盛会をお祈り申し上げます。

(教育社会67年卒 千葉県流山市在住)

千條 武

残念ながら体調不良のため欠席いたします。

(教育社会67年卒 千葉県松戸市在住)

巽 駒太郎

星会長ご苦勞様です。都合で欠席お許し下さい。

(教育社会67年卒 神奈川県横浜市在住)

小玉 幸彦

主人はすっかり歩けなくなりました。近くで(駒場団地内集会所)習える詩吟は続けています。送り迎えしています。(奥様代筆)

(教育社会68年卒 茨城県取手市在住)

菅野 正

残念ですが、小旅行のため欠席いたします。ただいまホームページ(H.P.)「定点神田神保町HP」を好評配信中です。

(教育社会69年卒 東京都文京区在住)

野島 節子

この同窓会は、今や生き甲斐の一つになっています。

(教育社会69年卒 千葉県千葉市在住)

山口 久子

十月二十八二十九日と湯河原に一泊の予定で残念ながら今回は欠席させていただきます。六月十四日開催の社会学科同窓会の「苗床会」の記事をとりあげて頂きありがとうございます。当日は楽しい時間をすごして参りました。

(教育社会69年卒 東京都大田区在住)

北館 博人

この度、小玉さんの後任で事務局メンバーに入ることになりました。色々お世話になると思います。色々お話しになるといいと思います。

(教育社会72年卒 千葉県浦安市在住)

市塚 守

八年間の韓国留学を終えて帰国しました。来年は町内会の役員をしようと思っております。

(教育社会73年卒 群馬県高崎市在住)

佐々木 博

お陰様にて元気で毎日をご逝去しております。当日は他の予定もあり欠席させて頂きます。ご盛会を祈念しております。

(教育社会73年卒 千葉県鎌ヶ谷市在住)

下坂 節男

いつもご案内ありがとうございます。大学ではろくに勉強しなかつた者としては、この種の会合に出ることには抵抗があります。そのようなことから、今後はご案内しないでございます。

同窓会の盛会を祈念しております。

(教育社会74年卒 千葉県流山市在住)

(事務局より)

本当に残念ですが、いたしかたなく了解いたします。ご健康に留意されお過ごしください。

津吹 茂

ご案内ありがとうございます。申し訳ありませんが、先約があり欠席させていただきます。ご盛会をお祈り申し上げます。

(教育社会74年卒 神奈川県相模原市在住)

今野 俊治

毎回欠席で申し訳ありません。

(教育社会75年卒 千葉県柏市在住)

井腰 伯子

会の運営ご苦労様です。

(教育社会76年卒 栃木県佐野市在住)

菅谷 清

茨城県の県立高校を退職して5年目。現在、県立古河中等学校に再任用として週三日勤務しております。自宅の敷地内のわずかなスペースを利用して家庭菜園を楽しんでいます。

(教育社会76年卒 茨城県古河市在住)

岩田 真

当日を楽しみにしております。よろしくお祈りします。

(教育社会79年卒 埼玉県さいたま市在住)

小泉 信三

いつも出席出来ず申し訳なく思っています。

現在、地元で退職後、自治会長としております。地域づくりの中で、今までの経験を生かせればと思っております。

今回の「きょうかん」第十四号で、現在の東北大学教育学部の様子が少しわかりました。(新聞で見ると入学試験情報で困惑していました。)

これからもよろしくお祈りいたします。

(教育社会79年卒 栃木県那須塩原市在住)

佐々木 浩

「きょうかん」にて学部のこと、皆様の近況のことなど興味深く、懐かしく拝読させて頂いております。いつもありがとうございます。

(教育社会80年卒 東京都練馬区在住)

飯野 健児

同窓会の増々の発展を祈念申し上げます。

(教育社会83年卒 東京都国分寺市在住)

佐藤 靖志

新規入会です。よろしくお祈りします。

(教育社会89年卒 東京と府中市在住)

鈴木 英一

前橋保護観察所へさいたま市から新幹線通勤しています。再犯防止が全省庁上げての課題とされていますが、犯罪をした人が主体的に事件を反省し、社会の一員として生きていく決意を持たせる制度となるか。大きな岐路のような気がしています。

(教育社会89年卒 埼玉県さいたま市在住)

赤間 啓介

昨年十一月中旬に庭木の選定中に木から落ちて骨粗しょう症になりましたが、中学時代の教え子の医者治療してもらい、なんとか歩けるようになったので、今回の同窓会に参加できます。

(教育行政55年卒 栃木県小山市在住)

荒木 廣

盛会をお祈りいたします。

(教育行政58年卒 東京都世田谷区在住)

清水 俊雄

詩人萩原朔太郎記念の前橋文学館友の会会長のほか、前橋市介護予防サポーターなどボランティア活動で過しております。都合で欠席いたしますが、同窓会の盛会を祈念申し上げます。

(教育行政59年卒 群馬県前橋市在住)

高橋 靖直

去る九月中旬、アメリカの教授夫妻を案内して、片平と川内キャンプを訪ねました。

(教育行政66年卒 神奈川県相模原市在住)

望月 久

当日は生憎と所用があり、出席が叶いません。誠に残念ですが次回を期したいと思います。当日のご盛会と出席の皆様のご健勝を衷心よりお祈り致します。

(教育行政67年卒 東京都武蔵野市在住)

青木 進

鎌ヶ谷市主催「かまがや地域づくりコーディネーター養成講座」の基礎編最終日になっており欠席します。盛会を祈念します。

(教育行政69年卒 千葉県鎌ヶ谷市在住)

阿部 孝

いつもいつもありがとうございます。十月二十八日、皆様にお会いできますのを楽しみにしています。

(教育行政69年卒 千葉県柏市在住)

新井 雄啓

役員の皆様大変ご苦労様です。会になかなか参加できず申し訳ありません。

現在、町長職二期目の途中です。越生(おごせ)梅林など観光名所がありますので、皆様是非お出かけ下さい。

羽尾 和夫

当日、わが青春そのものであった仙台学生会館の「北山天狗岩の会」総会と公務ともいうべき全国高校駅伝群馬予選会の交通指導もあり、まことに残念ながら欠席せ



ざるをえません。市の交通指導員として八年、毎朝児童生徒と接しています。

(教育行政69年卒 群馬県伊勢崎市在住)

荊澤 薫

女子バスケのトップリーグ(Wリーグ)に参加している山梨クイーンビーズの代表をしております。

当日は、リーグ戦のホームゲームがありますので欠席させて頂きま

す。盛会をお祈りしております。

福田 昭夫

現在は、立憲民主党に所属し、枝野代表のかかげる『まっとうな政治』をあらゆる分野で実現し、国民の皆さんおひとりお一人の幸せな暮らしにつながる日本をつくるため、全力で頑張っているところで。残念ながら公務により出席できません。皆様によりしくお伝え下さい。

(教育行政71年卒 栃木県日光市在住)

鏡谷 眞美

ご盛会をお祈りします。(所用のためどうしても出席かないません。)

(教育行政73年卒 千葉県松戸市在住)

大友 俊敬

入会させて頂いたばかりですが、今回は都合により欠席させて頂きます。寄稿の件は申し訳有りました。

(教育行政75年卒 神奈川県横浜市在住)

寺内 誠

中学校現場で、様々な波に翻弄されています。教育改革という名の様々な誰かからの「思いつき」と「その場しのぎ」に振り回される日々です。

(教育行政85年卒 栃木県栃木市在住)

中島 洋明

四月から伊勢崎高等特別支援学校に勤務しています。初めての特別支援学校勤務です。これまで勧めた高等学校とは様々な点で違うため戸惑うことも多々ありますが、生徒一人一人に寄り添いながら個に応じた指導・支援を行う毎日、原点に戻って考える機会にもつながり充実しています。(ただし、専門性の決定的な不足に苦しんでいます。)

(教育行政85年卒 群馬県太田市在住)

長沼 真吾

現在は、仕事の都合で石川県金沢市に居住しております。住まいが関東から離れたためか、単なる年齢のせいかわかりませんが、このところ仙台の事が思い出されたりしません。二十八日の同窓会総会・懇親会は欠席となります。ご参加の皆様のご多幸を金沢より祈念しております。

(教育行政88年卒 東京都八王子市在住)

小川 慎介

同窓会運営に心より感謝いたしております。なんとか時間の調整ができましたので参加いたします。今年、五月に仙台を訪ね、教育行政でお世話になった宮越先生とお会いしてきました。今年度をもって退官されるとのことで、時間の流れを感じた次第です。当日を楽しみにしております。

(教育行政89年卒 神奈川県相模原市在住)

奥泉 英夫

加齢による心身機能の低下と付き合いながら、地元群馬県内の篤志面接委員活動だけは続けています。被收容者との個別面接が活動内容の中心になっていますが、心を通じ合って、笑顔になってくれる姿に出会うと、この活動は続いてまいります。今では可能な限りの思いで対応しています。

(教育心理61年卒 群馬県前橋市在住)

菅田 美紀子

昨年星会長からのご案内で東北大学校友会を知り入会しました。九月末の川内萩ホールでのホームカミングイベントで記念講演をさき感動しました。「はやぶさ2」のニュースを見た翌日でしたので東北大学の二人の先生が深くかわっていることに驚きました。教育学部の関東支部会から全学同窓会に繋がったことに喜びを感じています。

(教育心理67年卒 千葉県柏市在住)

佐藤 良子

皆様の健康と御多幸をお祈り致します。

(教育心理69年卒 神奈川県横須賀市在住)

寺嶋 洋平・順子

すでに用事の前定が決まっておりますので欠席です。盛会をお祈りしております。

(教育心理75年卒 千葉県習志野市在住)

寺島 ひろ子

盛会をお祈りいたします。

(教育心理78年卒 埼玉県所沢市在住)

小滝 威

当日所用のため出席できません。ご盛会をお祈りしております。

(教育心理85年卒 栃木県大田原市在住)

工藤 与志文(来賓・講師)  
当日は、PC等の準備、よろしくお願ひいたします。

(教育心理86年卒 仙台市青葉区在住)

吉田 恵子

現在、公立高校に勤務しています。定年まであと五年、そろそろ第二の人生について思いを巡らす年齢になって参りました。健康寿命を意識しながら自分の身の丈に合った生涯学習を続けていけたら・・・と思っております。会ですますのご盛会を祈念いたしております。

(教育心理86年卒 山梨県甲府市在住)

野村 正宣

同学年だった何人かに参加を呼びかけましたところ、佐藤靖志と小川慎介の両名が参加するとの知らせがありました。その旨連絡が届いているでしょうか?とても頼りになる両名ですのでよろしくお願い申し上げます。

(教育心理89年卒 東京都品川区在住)

(事務局より)

お陰様でお二方とも出席いただきました。野村様お声掛け有難うございました。

佐藤 公彦

今年度より同窓会の活動に参加させていただきます二〇一五年卒業の佐藤と申します。同窓会のご企画有難うございます。あいにく



「きょうかんの重鎮」

当日はどうしても都合がつかず欠席とさせていただきます。今後、積極的に同窓会活動にお伺いさせていただきます。

(教育心理15年卒 東京都港区在住) (事務局より)

若い方のご参加大歓迎です。同期のお仲間にもお声掛け頂ければ嬉しいですよ。

高橋 渥子

いつも「きょうかん」をお送り下さりありがとうございます。関東地区同窓会が長く続く事を願っております。

(心身障害56年卒 群馬県太田市在住)

板垣 幸治

体調が思わしくなく前向きで取り組めないのが残念です。盛会を期待します。

(心身障害59年卒 神奈川県平塚市在住)

鈴木 貞夫

元東北大学教授長淵先生(聴覚障害)と同じ年齢であり、平成八年の韓国ソウルでの国際会議以来交流をしています。お互い八十歳を越えて、文通により励まし合っ

てご指導いただいております。一応出席します。体調をととのえておきますがよろしくお願います。

(心身障害60年卒 神奈川県横浜市在住)

高橋 敏行

関東地区同窓会員の皆様へ、長い間、運転お疲れ様です。これから歩行者・自転車利用者として交通ルールを守り、しっかりと確認して事故に遭わないようにしましょう。夕方・夜間の外出は、明るい服装と反射材を活用しましょう。

(警視庁交通部)

小生の自主返納とは?...

運転免許の有効期限内に自動的に免許を返納し、運転を引退することです。既に七月頃に申出し処理済みです。

(心身障害62年卒 東京都町田市在住)

郷家 和子

今年度も非常勤講師として大学・専門学校で週二回勤務しています。

嬉しいことがありましたのでご報告させていただきます。本年七月一日付で視覚障害認定基準が改定されました。私は、厚生労働省にその

基となる報告書を提出した公益財団法人日本眼科学会及び日本眼科医会による合同委員会の委員のひとりでした。改正に向けて平成二十二年から検討を重ねてきました。それが結実し、公布に至りました。本当に大きな喜びを味わうことができました。

(心身障害69年卒 東京都練馬区在住)

落合 俊郎

あと二年で二回目の退職です。オープンキャンパスと重なり、参加

することができません。皆様の更なる健康とご活躍をお祈りいたします。

平成五年九月十七日に行われた第七回総会の式次第・その他全資料が見つかりました。二十五年も前になりますね。

(心身障害75年卒 大阪市東住吉区在住)

出口 利定

別の予定があり、欠席いたしました。すみません。何とか元気でやっています。

(心身障害76年卒 東京都練馬区在住)

篠 博久

昨年肺炎で二か月入院しました。取り留めたこの命、社会貢献のために尽くしたいと思えます。維持会費は振込みました。

(学校教育57年卒 埼玉県戸田市在住)

令和元年八月十一日、篠様のご息女から「父は令和元年七月二十八日亡くなりました」とのお知らせをいただきました。本当に残念あり、心からご冥福をお祈りいたします。

(学校教育64年卒 茨城県水戸市在住)

元気になっています。同窓会のご成功をお祈りしています。青春の日々と、ふるい明善寮の建物がなつかしい。

(学校教育60年卒 東京都杉並区在住)

高橋 睦人

現在の職場(所属)、東北大学リーディングプログラム推進機構。グローバル安全学教育研究センター特任教授(客員)として、博士学生のキャリアパス・コーディネートを担当しています。(青葉山の研究棟)

(学校教育64年卒 神奈川県藤沢市在住)

茨城高専の教師を退職して数年経ちました。現在は時折文学講座の講師をたのまれて図書館等で講演したりしていますが、高齢者となりましてので、これと同窓会も止めさせていただきます。

(学校教育64年卒 茨城県水戸市在住)

野木 彌

八十歳を過ぎたので連絡不要です。

(学校教育62年卒 東京都渋谷区在住)

了解しました。対応します。

(事務局より)

後藤 光

私は戦災資料センターでガイドボランティアをやっています。施設には、戦争や空襲の戦禍の様子が展示されています。体験者の話や映像も見えて貰っています。

(学校教育64年卒 神奈川県藤沢市在住)

佐々木 紀子

このような施設は他にないので、全国から修学旅行の中学生等、毎日沢山の方々が見学に来られます。ガイドは見学者の誘導や展示品の説明等を行っています。

「決して戦争はしていけない」の思いを強くしています。

(学校教育66年卒 東京都江東区在住)

昨日はよろしくお願いたしました。

当日はよろしくお願いたします。

(学校教育68年卒 東京都墨田区在住)

八月の社会教育研修会で前仙台市長奥山恵美子氏の講演を拝聴しました。教育長や市長時代のいろいろなお話を伺ったのですが、偶

昨年十月に主人は他界しました。大変お世話になりました。

(学校教育64年卒 栃木県宇都宮市在住)

ご愁傷様でした。心からご冥福をお祈りいたします。

(事務局より)

「きょうかん」お送りいただきありがとうございます。いつも興味深く楽しく拝読させていただいております。関係者の方々のご尽力の賜と重ねてお礼申し上げます。

(学校教育64年卒 神奈川県横浜市在住)

私は戦災資料センターでガイドボランティアをやっています。施設には、戦争や空襲の戦禍の様子が展示されています。体験者の話や映像も見えて貰っています。

(学校教育64年卒 神奈川県藤沢市在住)

渡辺 登美子

私は戦災資料センターでガイドボランティアをやっています。施設には、戦争や空襲の戦禍の様子が展示されています。体験者の話や映像も見えて貰っています。

(学校教育64年卒 神奈川県横浜市在住)

猪俣 和子

私は戦災資料センターでガイドボランティアをやっています。施設には、戦争や空襲の戦禍の様子が展示されています。体験者の話や映像も見えて貰っています。

(学校教育64年卒 神奈川県藤沢市在住)

このような施設は他にないので、全国から修学旅行の中学生等、毎日沢山の方々が見学に来られます。

ガイドは見学者の誘導や展示品の説明等を行っています。

「決して戦争はしていけない」の思いを強くしています。

(学校教育66年卒 東京都江東区在住)

昨日はよろしくお願いたしました。

当日はよろしくお願いたします。

(学校教育68年卒 東京都墨田区在住)

八月の社会教育研修会で前仙台市長奥山恵美子氏の講演を拝聴しました。教育長や市長時代のいろいろなお話を伺ったのですが、偶

昨年十月に主人は他界しました。大変お世話になりました。

(学校教育64年卒 栃木県宇都宮市在住)

ご愁傷様でした。心からご冥福をお祈りいたします。

(事務局より)

私は戦災資料センターでガイドボランティアをやっています。施設には、戦争や空襲の戦禍の様子が展示されています。体験者の話や映像も見えて貰っています。

(学校教育64年卒 神奈川県藤沢市在住)

私は戦災資料センターでガイドボランティアをやっています。施設には、戦争や空襲の戦禍の様子が展示されています。体験者の話や映像も見えて貰っています。

(学校教育64年卒 神奈川県藤沢市在住)



# 12周年ホームカミングデー

わたしの仙台、わたしの東北大学ー  
 (土)・29日(日)【会場】東北大学百周年記念会館 川内森ホール



「ホームカミングデーのパムフレット」

いつもご親切にご案内頂き有難うございます。誠に残念ですが足が不自由となり、行きたいのですが、この度は諦めることにいたしました。  
 どうぞ皆様のご健康を祈ります。  
 (学校教育69年卒 東京都文京区在住)

渡邊 宣隆(来賓・東北支部長)  
 当日懇親会場で報告させていただきます。東北支部顧問の関口隆氏も参加いたしますのでよろしく願います。  
 (学校教育68年卒 仙台市青葉区在住)

鬼 宗久

【第15期(平成30年11月～令和2年10月)の活動方針】  
 会員相互の親睦と交流を本旨とし、本会の一層の充実・発展をめざし、会員の意見、提案を反映させる「会員参加の同窓会」を運営の基本とする。この趣旨にもとづき、会員の理解と協力を得ながら、次の活動を堅実に継続推進する。  
 (1) 会員相互の交流を積極的に進め、活動の充実と会員拡充を図る  
 (2) 会報「きょうかん」の発行  
 (3) 第16回総会・懇親会の開催  
 (4) 東北大学教育学部同窓会本部・東北支部、及び東北大学校友会(全学同窓会)との連携強化

然送迎の車や懇親の席で隣だったので、仙台や東北大学の移り変わりや現状をお聞きすることができました。氏は四十九年東北大学経済学部卒です。現在は男女共同参画を後押しするため娘さんの子を世話しているそうです。  
 (学校教育68年卒 静岡県園町在住)

当日は前日の天候次第では、最後まで出席・懇親は少し難しいのですが、きっと大丈夫!?!と思っております。皆様の元気・やる気で自身に「カッター」を入れたりと、楽しみにしています。  
 (学校教育69年卒 神奈川県横浜市在住)

星 重昭

## ●第14期 一般会計収支決算書 (平成28年11月～平成30年10月)平成30年10月28日現在

1. 収入の部 (単位:円)

科目	A 予算額	B 決算額	差異 (B-A)	備考
1. 維持会費	570,000	504,000	▲66,000	会費納入者 3,000円×168名
2. 寄付金	0	0	0	
3. 雑入	5,000	12	▲4,988	利子
4. 繰越金	452,788	452,788	0	
合計	1,027,788	956,800	70,988	

2. 支出の部 (単位:円)

科目	A 予算額	B 決算額	差異 (B-A)	備考
1. 運営費	300,000	19,339	▲280,661	第14期役員会等
2. 活動費	480,000	387,278	▲92,722	総会・役員会の開催準備、「きょうかん」作成等
3. 需用費	190,000	125,917	▲64,083	「きょうかん」発送費、通信費等
4. 予備費	57,788	0	▲57,788	
合計	1,027,788	532,534	▲495,254	

3. 第15期への繰越金  
 1 - 2 = 956,800円 - 532,534円 = 424,266円

## ●第15回 総会・懇親会収支計算書 (平成30年10月28日開催 於麗澤大学東京研究センター・三國一) (単位:円)

(1)収入の部			(2)支出の部		
科目	金額	摘要	科目	金額	摘要
総会・懇親会費	180,000	5,000円×36名	会場費・宴会費	186,000	「麗澤大」・「三國一」支払
雑入	36,548	一般会計より	謝礼・手土産等	30,548	講師謝礼、来賓土産代
合計	216,548		合計	216,548	

## ●第15期 収支予算(案) (2018年11月～2020年10月)

1. 収入の部 (単位:円)

科目	A 予算額	B 前期予算	対前期費増減 (A-B)	摘要
1. 維持会費	510,000	570,000	▲60,000	3,000円×170名
2. 寄付金	0	0	0	
3. 雑入	5,000	5,000	0	利子等
4. 繰越金	424,266	452,788	▲28,522	
合計	939,266	1,027,788	▲88,522	

2. 支出の部 (単位:円)

科目	A 予算額	B 前期予算	対前期費増減 (A-B)	摘要
1. 運営費	150,000	300,000	▲150,000	役員会費
2. 活動費	480,000	480,000	0	総会準備・会報作成等
3. 需用費	200,000	190,000	10,000	会報郵送料、通信費等
4. 予備費	109,266	57,788	51,478	
合計	939,266	1,027,788	▲88,522	

- 第15期 役員 (印新任・※印移動)
- (以下の方がお世話役でした)
- |      |               |    |                |
|------|---------------|----|----------------|
| 幹事   | 田沢 良介 ('62心障) | 顧問 | 荒木 廣 ('58行政)   |
| 事務局長 | 石森ミネ子 ('68学校) | 顧問 | 家根 敏明 ('57社会)  |
| 会長   | 星 永揚 ('66社会)  | 顧問 | 越河 六郎 ('57心理)  |
| 副会長  | 堀籠 英夫 ('61社会) | 顧問 | 小林幸一郎 ('55社会)  |
|      | 阿部 孝 ('69行政)  | 顧問 | 菊地 明 ('55学校)   |
|      | 阿部 孝 ('69行政)  | 顧問 | 大曾根良衛 ('55哲学)  |
|      | 横館 厚太 ('67学校) | 顧問 | 江川 亮 ('55心理)   |
|      | 小熊 順子 ('69心理) | 顧問 | 高橋 敏行 ('62心障)  |
|      | 阪内 宏一 ('69行政) | 顧問 | 菊谷 邦雄 ('60社会)  |
|      | 笹川智恵子 ('69哲学) | 顧問 | 小林 巖 ('92心障)   |
|      | 徳田 英明 ('69心理) | 顧問 | 野村 正宣 ('89心理)  |
|      | 星 重昭 ('69学校)  | 顧問 | 長沼 真吾 ('88行政)  |
|      | 木戸 裕 ('74哲学)  | 顧問 | 細淵 富夫 ('79心障)  |
|      |               | 顧問 | ○北館 博人 ('72社会) |
|      |               | 顧問 | ○小林 昭文 ('76哲学) |



「15期第1回役員会 ルノアール・ニュー八重洲北口店」

学生歌「青葉もゆるこのみちのく」

作詞 野田 秀・作曲 阿座上 竹四

一 青葉もゆる このみちのく

今ここに はらからわれら

力もて歌う 平和の讃歌

われらこそ われらこそ 国のおいしさを

理想ある 生命は常にこむむ

さらば 生きん

友よ 生きん

ああ 東北大 ああ 東北大

二 秋のかおる このみやぎの

今ここに 集いしわれら

愛もて求める 真理のしるへ

われらこそ われらこそ 学都のほり

歴史ある 伝統は常に若し

さらば 伸びん

友よ 伸びん

ああ 東北大 ああ 東北大

三 朝陽なく ひろせ川

今ここに 安らわれら

心もて語る 自由の行く手

われらこそ われらこそ 世界のかなめ

未来ある 若者は常に強し

さらば 行かん

友よ 行かん

ああ 東北大 ああ 東北大

事務局ノートから

関東地区同窓会・教育学部同窓会本部・東北支部同窓会・全学同窓会の今後の主な行事をお知らせいたします。ご参考にして下さい。

- ①日時 令和元年九月二十八日(土)～二十九日(日)
②会場 「川内萩ホール」ほか
③内容 \*九月二十八日(土) 講演「オリンピックを語る」(東北大学)

関東地区同窓会の総会・懇親会は、二年に一度の開催で今年度は中間年度に当ります。代わりに会

報「きょうかん」の内容を充実させましたのでお楽しみ下さい。次回は来年・令和二年十一月七日(土)を予定しています。

- ①日時 令和元年十月二十六日(土)午後一時から
②会場 川内南キャンパス
③内容 総会(午後一時～二時) 記念講演(午後二時～三時)

「東北大学教育学部同窓会」のこれまでとこれから(仮題)
懇親会午後三時～五時半

- ①日時 令和元年十一月十六日(土)午後一時から
②会場 川内南キャンパス文化系総合研究棟
③内容 総会

記念講演上埜高志先生 懇親会 東北大学生協
「東北大学一二周年ホームカミングデー」

- ①日時 令和元年九月二十八日(土)～二十九日(日)
②会場 「川内萩ホール」ほか
③内容 \*九月二十八日(土) 講演「オリンピックを語る」(東北大学)

杜の音楽祭(三部構成) 他に多数のイベントが予定されています。

お問い合わせ先 東北大学校友会事務局 022-217-5059

E-mail: alumni@grp.tohoku.ac.jp
※ただし、「きょうかん」が皆様へ届くのが九月末?間に合わない場合はご容赦下さい。

前期から今期にかけて次の方が逝去されました。心からお悔やみ申し上げます。
藤木 三千人先生(昭和三十年から三十四年まで教育社会学担当)

村田 道夫様(学校)二〇一七年
菊地 明様(学校)二〇一八年
篠 博久様(学校)二〇一九年
赤間 啓介様(行政)二〇一九年

編集後記

この度、小林昭文事務局長に代り、石森が仕事を引き継ぐことになりました。全く深く考えず、目に見え「きょうかん」の發送なら手伝えると思ひ、了承しました。ところが前任の小林様から具体的な仕事内容を教えていただき、その整理と保管のすばらしさに敬服するばかりでした。私には荷が重いのですが、星会長様や小林様、皆様のご指導ご支援をいただき、努めて参りたいと思ひます。私は退職して、十年以上になりました。「おかげ様で好きな事をしています。」と言えればいいのです。
(石森ミネ子 学校教育68年卒)

※「きょうかん」会員の拡大にご協力をお願いします。お知り合いに未加入の同窓生がいたら、「きょうかん」へのご加入をお勧めください。お声掛けをお願いします。

第15期(平成30年11月～令和2年10月)維持会費納入のお願い
東北大学教育学部関東地区同窓会は、平成元年7月に創設され今年で31年目迎えました。この間、会員の皆様のご協力ご支援に支えられ着実に歩を進めることが出来ました。心から感謝申し上げます。昨年11月から15期に入っておりますが、更なる発展を期し役員一同決意を新たにしています。同窓会活動は、会員の皆様からご協力いただき、維持会費(2年間で3,000円)により支えられています。第15期もご協力いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。
既にご協力いただいた方もいらっしゃいますが、未納入の方には「郵便振込票」を同封させて頂きました。勝手申し上げ恐縮ですが、本年12月末までに、維持会費を納入いただきたくお願ひ申し上げます。
東北大学教育学部関東地区同窓会 会長 星 永揚 事務局 石森 ミネ子
●連絡先 TEL・FAX 03-3635-2710 メール mineko.ishimori@nifty.com